





JSRは 未来の社会に貢献するために 挑み続けます

代表取締役・CEO・社長執行役員
堀 哲朗

高い技術と幅広い人財で、社会に価値を提供し続けます

当社は創業以来培ってきた技術力とグローバルに広がる多様な人財の持つパワーを結集し、社会の発展に必要不可欠な先進的な素材とソリューションを提供するリーディングテクノロジーカンパニーとして、経営の効率化と透明性・健全性の維持に努め、企業価値の向上を図り、自ら成長しながら社会に向けて継続的に価値を提供することを目指しています。

デジタルソリューション事業、ライフサイエンス事業、合成樹脂事業の3事業を柱とし、ユーザーの高い技術要求にこたえる革新的な素材とソリューションを提供しています。

技術と先見性で社会の発展に不可欠な 素材とソリューションを提供しています

デジタルソリューション事業では、特に半導体製造に欠かせないフォトレジストの分野において、現在最先端のEUVフォトレジストや、次世代技術であるメタルオキサイドレジストの開発・製造で世界をリードしています。また、高画質化・小型化・低消費電力化といったニーズに応じたディスプレイ材料も提供しています。

ライフサイエンス事業では、CDMO (バイオ医薬品の開発・製造受託)、CRO (医薬品の開発受託) に加え、IVD (体外診断用医薬品)、BPM (バイオプロセス材料) を含む、診断から医薬品製造までの一貫したプロセス支援体制をグローバルに展開し、バイオ医薬品の開発成功確率の向上や開発期間短縮に貢献しています。

合成樹脂事業については、JSRグループのテクノUMG株式会社が、ABS樹脂のリーディングカンパニーとして、自動車や家電、建材などの分野に素材を供給するとともに、自動車向けの特種品や環境負荷の小さい素材など、機能を付加した製品を開発・提供しています。

さらに当社は、AIや量子コンピュータ等の新技術およびデータサイエンスの応用によるマテリアルズ・インフォマティクスを活用や、基礎研究と応用技術の開発において外部の研究機関とのオープンイノベーションを推進し、未来へ向けた取り組みにも力を入れています。

イノベーションを生み出す多様な人財を育成します

イノベーションは新たな可能性を見出すインスピレーションから生み出されます。多様な人財こそ成長の基盤であり、従業員の潜在能力を引き出すためには、一人ひとりがお互いを理解し尊重しあうことが不可欠です。当社はダイバーシティ、エクイティ、インクルージョンへの取り組みなどを通じ、エンゲージメントを高め、従業員が自分らしく成長できる環境の構築に努めています。自ら持続的に発展できる環境を整備することで、未来のイノベーションを実現する人財を育成します。

迅速な戦略実行を可能にする経営基盤のもと、 新たな挑戦が始まりました

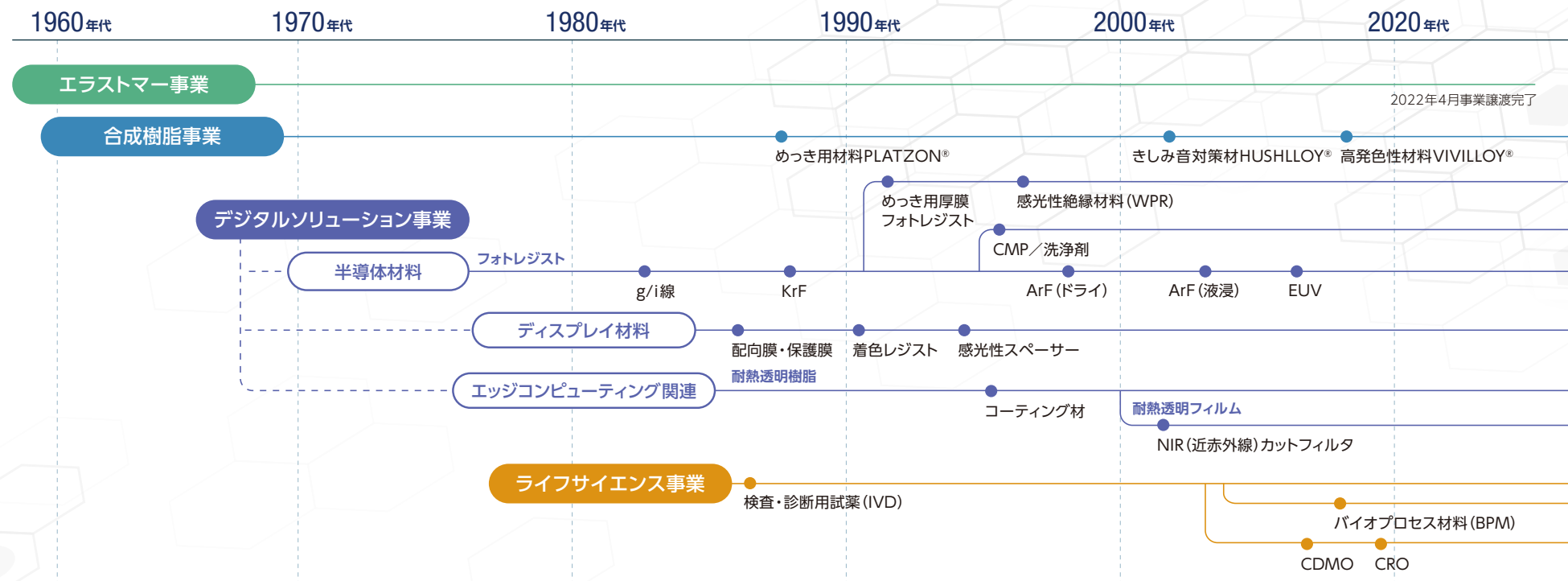
当社は、1957年に日本合成ゴム株式会社として設立され、その後、時代や社会のニーズの変化を踏まえて先端技術を開拓し、合成樹脂事業、デジタルソリューション事業、ライフサイエンス事業などにポートフォリオを拡大し、事業構造の革新を図ってきました。

2024年6月25日には、自らの戦略に基づき、JICキャピタル株式会社との戦略的パートナーシップのもと非上場化を果たし、迅速な戦略実行を可能にする新たなJSRをスタートさせました。これにより世界市場においてより競争力を発揮する、レジリエンスとサステナビリティをあわせ持った企業となるべく、グループ一丸となって取り組んでまいります。

事業変革の軌跡と現在地

JSRは、1957年の創業以来、精緻を極めた最先端テクノロジーカンパニーとして、科学の進歩と実用化を推進。
新たな可能性を見いだすインスピレーションを常に持ち続け、無限の可能性を持って世界が必要とする新しい領域に挑戦し続けます。

JSRの沿革



事業を通じた社会への貢献(インパクト)

たとえば、 自動車の普及に



1960年に合成ゴムの国産化を実現し、モータリゼーションの発展に寄与。また、内装材に合成樹脂が採用され、自動車の快適性にも貢献しています。

たとえば、 電子機器の拡大に



半導体製造に使用されるフォトレジストによって、半導体チップの微細化を実現。高性能な電子機器開発が可能となり、情報通信産業の発展に貢献しています。

たとえば、 液晶テレビの全盛期に



培ってきた高分子技術を活かし、液晶ディスプレイの高輝度、高精彩に貢献する豊富なラインナップを開発。薄型テレビの普及に貢献しました。

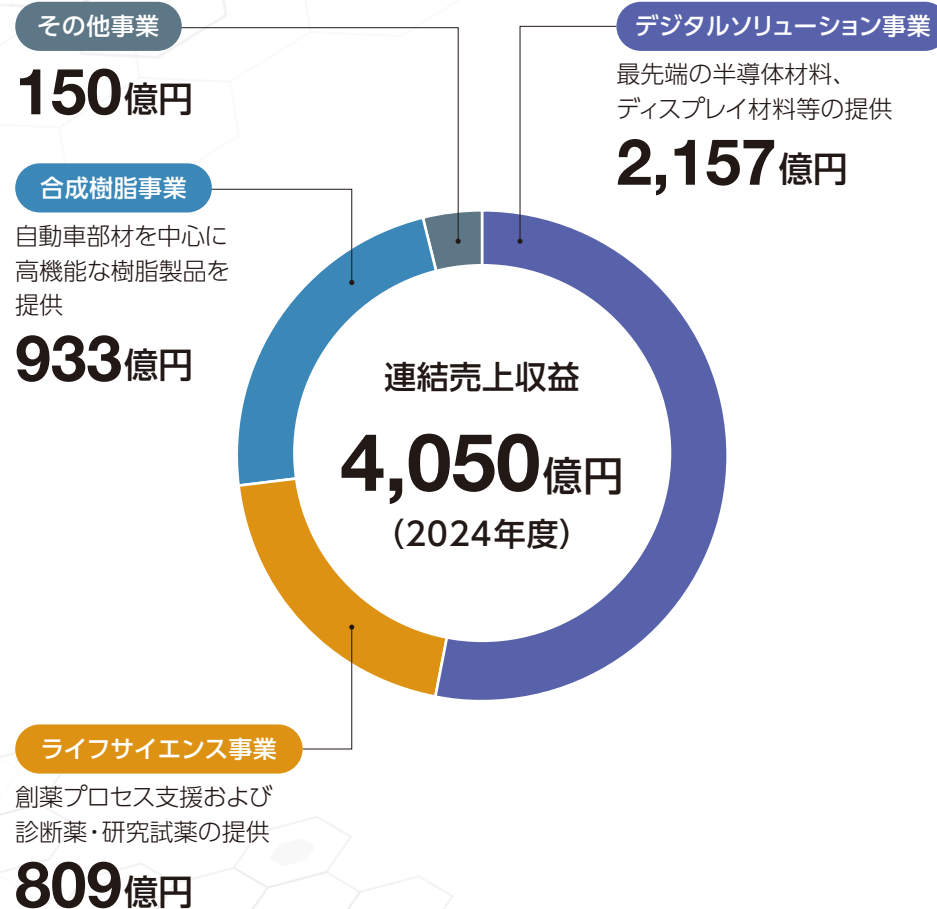
たとえば、 バイオ医薬品開発で



材料、診断薬、創薬支援サービスなどにより一貫したサポート体制を確立。バイオ医薬品開発の課題解決に貢献しています。

数字でみるJSR(2024年度)

JSRの事業セグメント



連結従業員数

7,644名

※2025年3月31日時点の連結従業員数

このうち海外拠点で働く従業員数は
3,974名です。

研究開発費

342億円

※2024年度(2024年4月1日～2025年3月31日実績)
グループ全体、仕入品に係る受託研究費を含む

未来の技術のために研究開発に力を
入れています。

グループ企業

国内17社
海外41社

※2025年4月1日現在

グローバルに事業を展開しています。

有給取得率

84.1%

※2024年度(2024年4月1日～2025年3月31日実績)、
JSRからの出向者を含む

ワークライフバランスを重視した働き
方を推奨しています。



デジタルソリューション事業

最先端の半導体材料、ディスプレイ材料等の提供



半導体材料

半導体製造において回路形成や高密度実装に欠かせないさまざまな高性能材料を揃え、世界の最先端半導体メーカーの課題解決に貢献しています。

強み

- 高品質製品の安定供給
- 顧客ニーズに即した柔軟な開発・販売・生産体制
- 高分子・有機合成技術や分析技術をベースに培った製品開発力・課題解決能力
- 長年の実績による顧客からの強い信頼関係

JSRグループのポジション

アプリケーション

PC、スマートフォン、サーバー、自動車など

顧客

半導体デバイスメーカー

JSRグループ

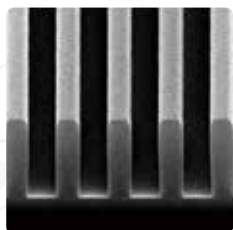
半導体材料

フォトレジスト、CMP材料 など

半導体製造前工程

半導体製造後工程

リソグラフィー材料



高性能／微細化による回路形成

基板上の電子素子や回路の微細加工に使用され、半導体の高性能化、小型化、低消費電力化に貢献

主な製品

- フォトレジスト
g線、i線、KrF、ArF、EUV (化学増幅型、メタルオキシド)
- 液浸リソグラフィー用トップコート材料
- 塗布型ハードマスク (有機、無機)

CMP材料・プロセス材料



多層配線形成の多層化／精工化

配線層や絶縁層などの薄膜を平坦にする化学的機械的平坦化 (CMP) 工程で使用されるCMPスラリー／CMP洗浄剤や半導体工程にてウエハ上に発生する残留物を除去する洗浄剤などを提供し、多層配線形成に寄与

主な製品

- CMPスラリー
- CMP洗浄剤
- 機能的洗浄剤

先端実装材料



高密度実装の高性能化／精工化

高密度化や三次元化が進む半導体製造の実装工程で配線形成や、半導体チップの接続、プリント配線板に使用され、電子デバイスのパッケージシステムの高性能化・高信頼性に寄与

主な製品

- バンプ・再配線めっき用厚膜フォトレジスト
- 感光性絶縁膜
- Beyond5G向け高速通信用低伝送損失材料



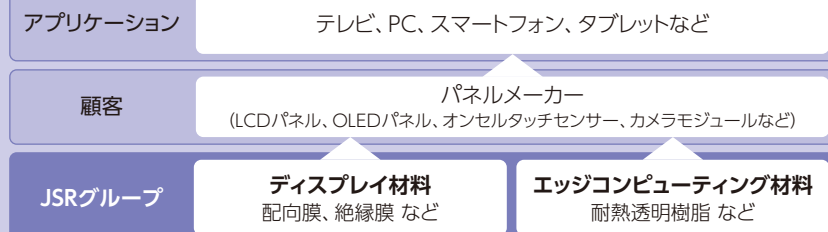
ディスプレイ材料・ エッジコンピューティング材料

大型テレビやスマートフォン、タブレット、PCなど多様化するデジタル製品に使用される材料を提供しています。高精細、かつ、高輝度（明るさ）を実現するとともに、省電力・省エネルギーなど環境保全に対応した幅広い高性能製品でお客様にソリューションを提案しています。

強み

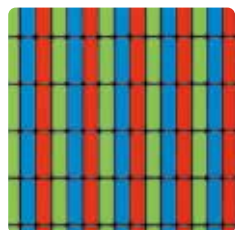
- 高シェア製品の保有
- 顧客ニーズに対応した販売・生産体制
- 高分子技術をベースに培った技術力

JSRグループのポジション



ディスプレイ材料

LCD材料



高画質化／軽量化／ 低消費電力化

液晶ディスプレイ (LCD) を構成する多層膜および高機能化材料として適用

主な製品

- 配向膜
- 有機絶縁膜
- 着色レジスト
- 保護膜
- 感光性スペーサー

OLED材料



高画質化／軽量化／ 低消費電力化

有機ELディスプレイ (OLED)、オンセルタッチセンサーを構成する材料として適用

主な製品

- 封止剤
- 平坦化膜
- 光取出し材
- 低温硬化絶縁膜
- 低温硬化ブラックマトリックス

エッジコンピューティング材料

耐熱透明樹脂ARTON® (アートン)



高画質化

優れた光学特性、寸法安定性、耐熱性を有する透明な樹脂。ディスプレイの光学補正や自然な色の写真撮像を可能にするカメラモジュールなどに適用



ライフサイエンス事業

探索・開発プロセスの支援および診断薬・研究試薬の提供

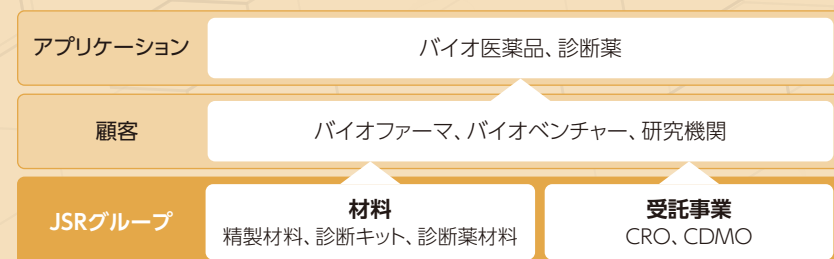


JSRグループでは、CDMO事業（バイオ医薬品の開発・製造受託）、CRO事業（医薬品の探索および開発受託）、IVD事業（体外診断用医薬品）、BPM事業（バイオプロセス材料）に取り組み、各グループ企業が一体となって、バイオ医薬品の探索から商業製造までの一貫したプロセス支援体制をグローバルで展開しています。これらの一連の事業を提供することで、医薬品の開発成功確率の向上や開発期間短縮に貢献していきます。

強み

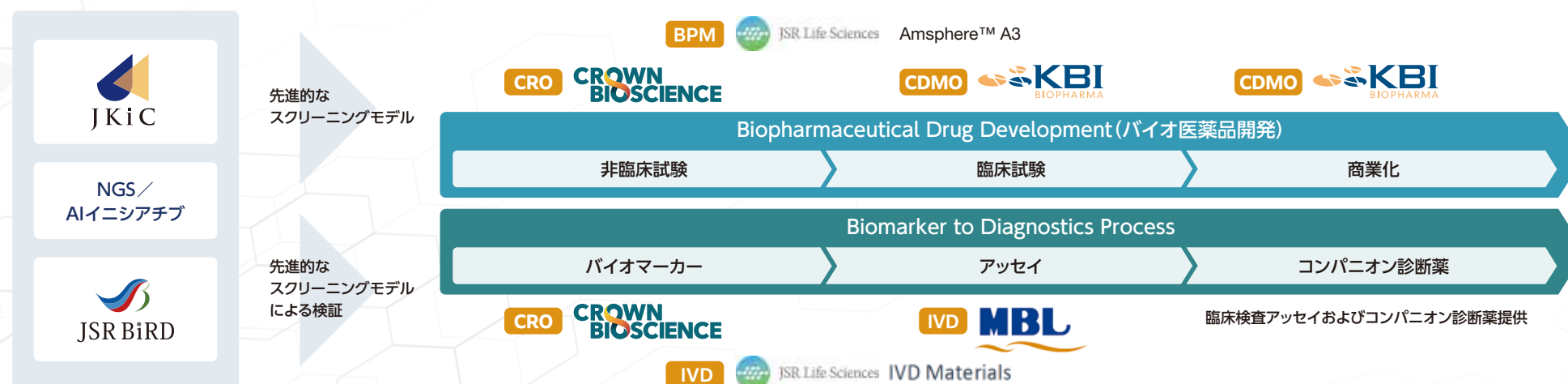
- 高い知見・技術力を持つグループ各社間のシナジーを発揮
- バイオ医薬品の探索から商業製造まで一貫してプロセスを支援できる体制
- 複雑なバイオ医薬品の開発サポートを提供する能力
- 半導体事業で培った品質保証体制
- バイオ医薬品製造のための動物細胞株樹立に対して世界クラスの技術と先進的ソリューションを提供
- 診断薬やバイオ医薬品製造業向けに革新的な材料を提供

JSRグループのポジション



グループシナジーを活かしたワンストップ体制

CRO Contract Research Organization **CDMO** Contract Development and Manufacturing Organization **IVD** In Vitro Diagnostics **BPM** Bio Process Materials



CRO

医薬品の探索および 開発受託サービス



開発化合物を適切に選定

がん、免疫、炎症領域における最新のトランスレーショナルリサーチを通じて、非臨床段階における開発候補化合物の探索と開発を受託

CDMO

バイオ医薬品の開発・ 製造受託サービス



開発と品質保証の両面でサポート

バイオ医薬品の開発を細胞株樹立からプロセス開発、臨床試験および商業化における原薬製造まで一貫して受託

IVD

診断・研究試薬材料



正確な診断／効率化

タンパク質、核酸、細胞といった生体成分の単離・精製のため体外診断試薬の材料として用いられ、個別化医療の鍵となる診断の正確性や効率化に寄与

主な製品

- 磁性粒子
- 免疫診断試薬用ラテックス粒子
- ブロッキング試薬

BPM

バイオプロセス材料



製造プロセス最適化

精密なポリマー合成技術、表面修飾技術、遺伝子工学技術を融合させた次世代型アフィニティ担体で、バイオ医薬品の製造プロセスの最適化に貢献

主な製品

- プロテインAアフィニティ担体
Amsphere™ A3



合成樹脂事業

自動車部材を中心に高機能な樹脂を提供



JSRグループであるテクノUMGが提供するABS系樹脂を中心とした製品は、多様なニーズに柔軟に対応する技術力により生み出され、複数の特性を組み合わせたユニークな特徴を持っています。樹脂製品の開発と部品設計の支援に取り組んでおり、世界中のユーザーに高く安定した品質、付加価値の高い製品を提供しています。

強み

- 独自技術による戦略商品の開発
- 広く深く市場を開拓するマーケティング力
- グローバルに対応可能な販売拠点とSCM体制
- サークュラーエコノミー推進による製品ライフサイクル構築
- バイオマス原料の素材研究・開発

JSRグループのポジション

アプリケーション	自動車、家電機器 etc.	
顧客	自動車業界（内装部品、外装部品） その他メーカー（家電部品、建築部品など）	
JSRグループ	一般ABS系樹脂	高付加価値品 HUSHLLOY®、VIVILLOY®、PLATZON® など

ABS系樹脂



豊富な
ラインナップ

高い実用耐性、耐衝撃性、加工性、耐候性を活かし、自動車部品や電気器具、建材部品に適用

- 一般グレード
- 難燃グレード
- 耐熱グレード
- 耐候性グレード

きしみ音対策材 HUSHLLOY®



静粛性／
部品削減

部品が擦れ合うことで発生する不快なきしみ音を防ぎ、きしみ音対策の効果の持続と部品コストの削減に貢献

用途 カーナビパネル、カップホルダーなど

めっき用材料 PLATZON®



生産性／
効率性

めっきの密着強度に優れ、極めて広い生産条件に対応可能で、生産性向上、歩留まり改善に貢献

用途 ステアリングホイール等自動車内装のめっき加飾部品など

高発色性材料 VIVILLOY®



環境負荷
低減／効率性

無塗装でありながら塗装に近い深みや鮮やかさを再現し、塗装工程省略およびトータルコストダウン、環境負荷低減に貢献

用途 ラジエーターグリル等自動車外装部品など



その他事業

JSR グループでは高い技術力を活かして社会に貢献するべく、グループ一体となった事業開拓や、企業・大学・研究機関とのオープンイノベーションで、さまざまな製品を生み出しています。

光造形システム



微細化／高精度化

3次元CADデータで設計した立体像をスライスデータに変換し、このデータに基づきレーザーで一層ごとに光造形用樹脂を硬化させていく積層造形により、美しく高精度な造形が可能

- 工業用3Dプリンター
- 紫外線硬化樹脂

ホルター心電計 Heartnote®



検出率向上

胸部に貼るだけで日常生活に支障なく最大7日間連続で心電測定が可能となり、従来の検査(24時間測定)では捉えにくい発作性心房細動*などの検出頻度を上げることを可能に

※脳梗塞の起因となる不整脈

研究開発と品質・製造

JSR グループは、新たな価値を生み出す先進技術の開発に挑み、高い品質意識に基づく優れた製品を社会に提供し続けることで、社会課題の解決に貢献します。



研究開発

研究開発部門のミッションは、現在展開している事業領域とその周辺分野における新規・応用研究などの「事業支援開発」と、将来大きな成長が見込まれるシーズ研究などの「次世代技術研究」の大きく2つに分かれます。

事業支援開発の推進に当たっては、市場開発からプロセス開発、製造技術開発、さらには製造、販売、物流といったグループ内のバリューチェーンとの連携を重視しています。ニーズを掘り下げるため、研究者が顧客と積極的に対話するなど、研究開発活動と事業の一体化を推進するとともに、各国での技術サービスを充実させ、顧客の事業推進をグローバルかつタイムリーに支援できる体制を構築しています。

シーズ研究などの次世代技術研究については、RDテクノロジー・デジタル変革センターを中心に、コンピュータ技術、データサイエンスの応用による研究開発業務全般を加速するほか、新規事業創出に向けて、高度な機能・特性を有する革新

的材料の開発研究にも取り組んでいます。さらに、JSR・東京大学協創拠点CURIEにおいて、JSR製品の機能発現原理を深く理解し、さらなる差別化製品の開発につなげる試みも進めています。また、国内外の大学や研究機関との共同研究などのオープンイノベーションを推進しており、ライフサイエンス分野のJSR・慶應義塾大学 医学化学イノベーションセンター (JKiC) では、医学的見地と素材開発の知見を融合させて、さまざまな研究領域に取り組んでいます。さらに、神奈川県川崎市の殿町国際戦略拠点キングスカイフロントにJSR Bioscience and informatics R&D center (JSR BiRD) を設立し、次世代医療およびマテリアルズ・インフォマティクスを軸としたオープンイノベーション拠点として、安全安心で豊かなデジタル社会、低環境負荷で持続可能な社会に貢献していくことを目指し、未来に向けた価値の創出に取り組んでいます。

品質・製造

生産技術部門とプロセス開発部門では、製品の性能を単に高めるだけでなく、安定した性能発揮と収益性の両立を実現し、市場競争力を強化しています。

研究開発で培った成果を活かし、最適化された生産プロセスと設備設計を融合させ、新製品の市場導入機会を確実に捉えています。

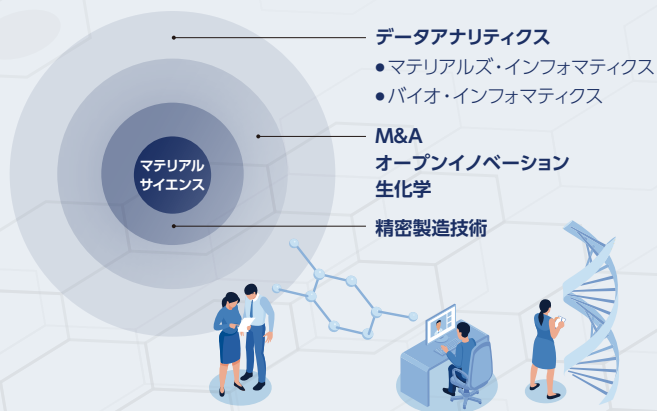
製造現場では、安全、環境、品質の三つの柱を高いレベルで実現するために、日々改善と努力を重ねています。

特に、デジタルトランスフォーメーション (DX) 技術の積極

的な導入により、自動化技術を駆使して製造プロセスの効率化を推進し、品質の更なる安定を図っています。

さらに、エネルギーの見える化を進めることで、電力の無駄遣いを削減し、節電意識の向上と環境負荷の軽減に貢献しています。

また、製造技術センターでは、生産活動における日々の課題に対処するだけでなく、製品の品質向上と製造技術の発展に向けた取り組みを積極的に進めています。



研究開発体制図

事業支援開発

電子材料

精密電子開発センター



- リソグラフィー材料開発室
- リソグラフィーソリューション開発室
- 先端実装材料開発室
- プロセス材料開発室

ディスプレイ材料

ディスプレイソリューション開発センター



- アクティブソリューション材料開発室
- プロセスソリューション材料開発室
- ディスプレイソリューション材料開発室
- アドバンスソリューション開発室

エッジコンピューティング

エッジコンピューティング事業部



- エッジデバイス材料開発室

ライフサイエンス

ライフサイエンス事業グループ会社

CROWN
BIOSCIENCE

JSR Life Sciences

MBL

KBI
BIOPHARMA

次世代技術研究

RDテクノロジー・デジタル変革センター



マテリアルズ・インフォマティクス推進室

イノベティブマテリアルズ開発室

産学連携

JSR・東京大学協創拠点 CURIE



産学連携

JSR・慶應義塾大学 医学化学イノベーションセンター (JKiC)



JSR Bioscience and informatics R&D center (JSR BiRD)



会社概要

社名

JSR株式会社 (JSR Corporation)

設立年月日

2023年6月15日

創立年月日

1957年12月10日

資本金

16,300百万円

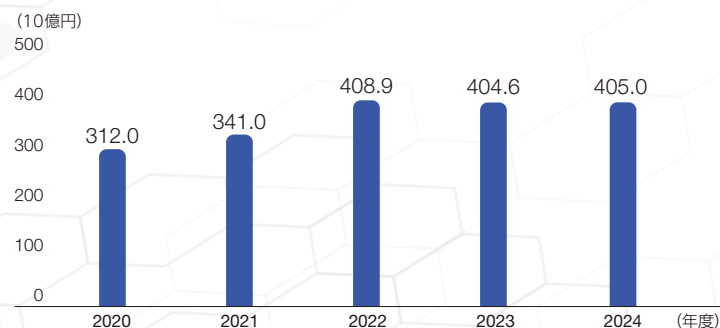
売上収益

4,050億円 (2025年3月期)

連結従業員数

7,644名 (2025年3月31日現在)

売上収益



事業所一覧

本社

〒105-8640
東京都港区東新橋1-9-2
汐留住友ビル
Tel : 03-6218-3500 (代表)
Fax : 03-6218-3682 (代表)

四日市工場

〒510-8552
三重県四日市市川尻町100
Tel : 059-345-8000
Fax : 059-345-8111

精密電子開発センター ディスプレイソリューション 開発センター エッジデバイス材料開発室

〒510-8552
三重県四日市市川尻町100
Tel : 059-345-8084
Fax : 059-345-8118

筑波事業所

〒305-0841
茨城県つくば市御幸が丘25
Tel : 029-856-1001
Fax : 029-856-1003

JSR・慶應義塾大学 医学化学イノベーションセンター (JKiC)

〒160-8582
東京都新宿区信濃町35
Tel : 03-6274-8602
Fax : 03-6274-8649

JSR Bioscience and informatics R&D center (JSR BiRD)

〒210-0821
神奈川県川崎市川崎区殿町3-103-9
Tel : 044-874-1930
Fax : 044-299-2150

